

中島海岸及び津谷川の災害復旧に関する検討会(第1回) 意見と対応

No	テーマ	発言者 (敬称略)	0606有識者検討会 指摘事項	事務局からの返答	対応(案)	0701第2回WG 指摘事項
1	有識者検討会の位置づけ	平吹	堤防の構造・配置などの基本計画がしっかり決まっている中で、何を、どこまで議論するのか、整理・確認させていただきたい。	堤防計画については地元合意を得ており、位置や高さについては変えられない前提。 自然や景観面で様々な要望事項があり、住民主体のワーキングで基本的な構想を練っている。ワーキングの議論を専門的知見からアドバイスいただく場として検討会を位置づけている。(事務局)	—	
2	有識者検討会の位置づけ	平吹	生態学の分野から中島海岸は着目されており、試金石のような存在。 検討会の中で事務局から「既に決まったこと」という制約を前提とせず、素直なやりとりと認めてほしい。	防災に関しては防潮堤が決まっているが、環境等はまだまだ議論が必要。ぜひそのように願います。(今村座長)	—	
3	防潮堤計画	鈴木	ケース4で国道まで引くケースもあると思うが、浸水域の傾向はどうなるのか？	傾向として(ケース4のシミュレーションと)同じ。津波高が20mあるので容易に乗り越える。例えば海岸に5.5mの防潮堤があってもL2津波はほぼ全量入ってくるので、貯留量としてはあまり効果が期待できない。(事務局) V時地形なので奥に行くエネルギーが増すので、前面で止めるのが基本。(今村座長)	—	
4	防潮堤計画	平吹	環境アドバイザーの会議で、山付きの場所は防潮堤は作らなくて良いという議論があったがここではどうなのか。	左岸の高台を利用する計画も検討したが、低い箇所もあり前面に堤防が必要。また、津波を呼び込んでしまう結果となるため、前面に堤防が必要。(事務局)	—	
5	防潮堤計画	平吹	堤防の形も左岸側の直角に曲がるのがなんとなく気になる。	堤防の接合部の裏手には、保安林の造成を計画している。背後の工夫などで景観対策が可能と考える。(事務局)		
6	防潮堤計画	平吹	堤防幅が100mと非常に大きく、景観的なインパクトも大きいと思うが、形状もこれから工夫の余地は無いのか。	堤防の断面形状については検討した経緯があるが、(堤防幅を)薄くするとコンクリートの巨大な壁になる。土堤・コンクリート張りに落ち着いた。(今村座長)		
7	高水敷整備	高取	フトン箆がそのまま水辺になると理解した。捨石、ふとん箆が(魚類の生息環境として)効くかどうかは議論があるところ。意外とフトン箆は植生が生えてこないのが、コンクリートで自然に洲をつけた方が良い場合もある。 地盤沈下による河口の変化で(生息する魚類が変わるため)何が良いかが決まってくるが、今時点ではよく読めない。	—	断面図でフトン箆の位置と水際線(干潮位、満潮位)の位置を整理。 資料2で提示	高水敷の具体的計画案(延長・幅)を提示 (反対意見は無し) 特に具体的な意見・要望無し
8	高水敷整備	平吹	水辺と陸はやさしい感じにつながっているのがベストだと思う。水の流れと土砂の流れ。防潮堤をもう10mくらい奥に引いてスペースを残す。排水からの土砂供給はある程度わかと思うので、このあたりで砂州がつくなど細かい検討がいるのでは。	(堤防は洪水処理計画で位置が決まるため、これ以上堤防を陸側に引くことは事業制度上困難)	断面図でフトン箆の位置と水際線(干潮位、満潮位)の位置を整理。 資料2で提示	

中島海岸及び津谷川の災害復旧に関する検討会(第1回) 意見と対応

No	テーマ	発言者 (敬称略)	0606有識者検討会 指摘事項	事務局からの返答	対応(案)	0701第2回WG 指摘事項
9	高水敷整備	鈴木	津谷川の河口左岸には震災前にはワンドがあつてカワザンショウなどがいた。アシハラガニ、スナガニも震災後に確認した。小泉大橋あたりではこれらの種が居る可能性があり、施工時に仮設道路のラインの取り方に工夫が必要。	—	施工前の事前調査を行い、仮設道路の法線を検討する必要がある。	
10	外尾川河口部の整備	鈴木	外尾川では震災後に貴重種のアカテガニが確認されている。生息環境を保全するか、横に移すかといった配慮が必要だと考える。	—	底生動物等の実態把握調査を行い、保全対策・配慮事項について検討する必要がある。 環境アドバイザー調査を活用し、調査を実施予定。	河口部整備の計画図を提示。 (反対意見は無し) ・湿地に行く駐車場はどこから侵入するのか？ →外尾川左岸を利用。入り口は市道復旧計画と調整。 ・JRとの土地の関係は？ →JRからは土地をそのまま残したいという意向を伺っている。 ・津谷川左岸導流堤をもう少し沖に伸ばせば、水門の位置を下流に移動できるのでは？ →現計画で、砂の移動限界水深まで沖出ししているの、これ以上伸ばしても効果は薄いと考えている。
11	外尾川河口部の整備	高取	一般的な干潟という概念では1/3海水くらいなので、今の塩分はかなり高く、海的な干潟になると思う。タツノオトシゴの仲間など海の魚まで居るような環境となる。淡水の流入がある限り、海水にはならないので干潟的な環境は保たれるだろう。	—	—	
12	外尾川河口部の整備	鈴木	先日の調査でオオノガイ、アサリを確認した。塩分は、上流から淡水供給があれば問題ではない。干潟は水質浄化としての機能があり1haあたり1億円の下水処理場相当という研究結果がある。なるべく緩い斜面をつかってやり、自然の成り行きに任せると良いのでは。	—	水辺の勾配をなるべく緩傾斜にし、自然の力で地形が形成されやすい断面を検討する必要がある。 資料2で提示	
13	外尾川河口部の整備	鈴木	地下水供給があればヨシは生育できるので、現場でチェックすればヨシが回復するかどうかあたりはつくと思ふ。順応的管理(生息場を造って自然の変化に任せる)が基本では。	—	(地下水調査結果のチェック)	→現計画は、民地の上に構想を描いている状態である。大前提として、地権者さんの了解・ご協力をいただく必要があり、今後説明会などで地元丁寧に説明していく予定。
14	外尾川河口部の整備	鈴木	津谷川右岸防潮堤と外尾川の間平地は、環境教育に活用することを観点に整備を進めていくと良い。	—	地元(WG)に、学識検討会からのインプットとして提示 資料2で提示	
15	外尾川河口部の整備	鈴木	重要種のオオノガイが生息している場所は、工事の際に生息環境毎「避けて」、堤防建設後戻す。本種は、震災前はおそらく居なかったが、震災後の環境に適応して着いてきた種。なるべく多様な環境を持つ干潟を残してやるのがポイントだろう。生物が色濃くいるところは底質毎よけておくのが方法だろう。	—	底生動物等の実態把握調査を行い、保全対策・配慮事項について検討する必要がある。 環境アドバイザー調査を活用し、調査を実施予定。	

中島海岸及び津谷川の災害復旧に関する検討会(第1回) 意見と対応

No	テーマ	発言者 (敬称略)	0606有識者検討会 指摘事項	事務局からの返答	対応(案)	0701第2回WG 指摘事項
16	外尾川河口部の整備	高取	魚類については、津谷川自体が良い川なので、外尾川河口干潟での魚類生息場機能としてはそれほど重視しないが良いと思う。 暗渠部の長さが長い為、魚類が入ってきにくいかもしれない。	—		
17	海水浴場整備	平吹	利用観点なので、もっと楽しい施設、景観にあったような施設を造ると良い。	—	資料2で提示	・トイレの配置など、小学校の正面に見える場所でもあるので、細かい施設配置には配慮が必要だろう。 →具体的な計画が立った段階で、再度詳細をご相談させていただきます。
18	海水浴場整備	平吹	砂浜環境は重要で、防潮堤の下敷きになってくる砂を「資源」として活用すると良いと考える。	—	施工計画へ反映	
19	海水浴場整備	平吹・鈴木	緑の防潮堤は、なかなか難しいと思う。常緑広葉樹をいきなり植えるのは危険(失敗している)。潮風・砂で生える種を植え次いでいきながら、長期的にやっていく課題。林業セクションとも議論して、宮城県らしい森をつくるべき。	—	地元(WG)に、学識検討会からのインプットとして提示	盛り土の高さは、松の根が横張りになって倒れないように深めに盛り土を入れると良いのでは？ →地下水位+2.4mが基準なの
20	海水浴場整備	平吹	平野先生と相談し、景観的なイメージをもちつつ進めると良い。	—	WG検討結果がある程度固まった時点で平野委員へ相談	
21	海水浴場整備	鈴木	海岸前面にはかなり砂がついてきて回復基調。現状戻ってきている生物に対する配慮が必要。	—	実態把握調査(植物・昆虫)を行い、保全対策・配慮事項について検討する必要がある。 環境アドバイザー調査を活用し、調査を実施予定。	→離岸堤について、あまり岸に近いとハマグリ漁場に影響を与えると伺ったため、出来るだけ沖出しするような計画とした。
22	海水浴場整備	今村	離岸堤も現在砂浜が回復中である実態を踏まえて、慎重に計画すべき。	—	砂浜の回復状況、変化のモニタリングが必要。 漂砂調査を実施する予定。	→離岸堤について、あまり岸に近いとハマグリ漁場に影響を与えると伺ったため、出来るだけ沖出しするような計画とした。
23	排水	平吹	津谷川左岸樋門の後背地も、右岸と同様の湿地・干潟整備ができないのか。	背後地については、農地災害復旧の計画となっている。地域も農地として使いたいという意向があるため、県の海岸・河川事業での買収は難しい。	—	
24	全体	鈴木	復旧計画のイメージがつかめない。現地見学の機会を設けてはどうか。	検討ワーキングに諮ってみる。	地元(WG)に、学識検討会からのインプットとして提示	